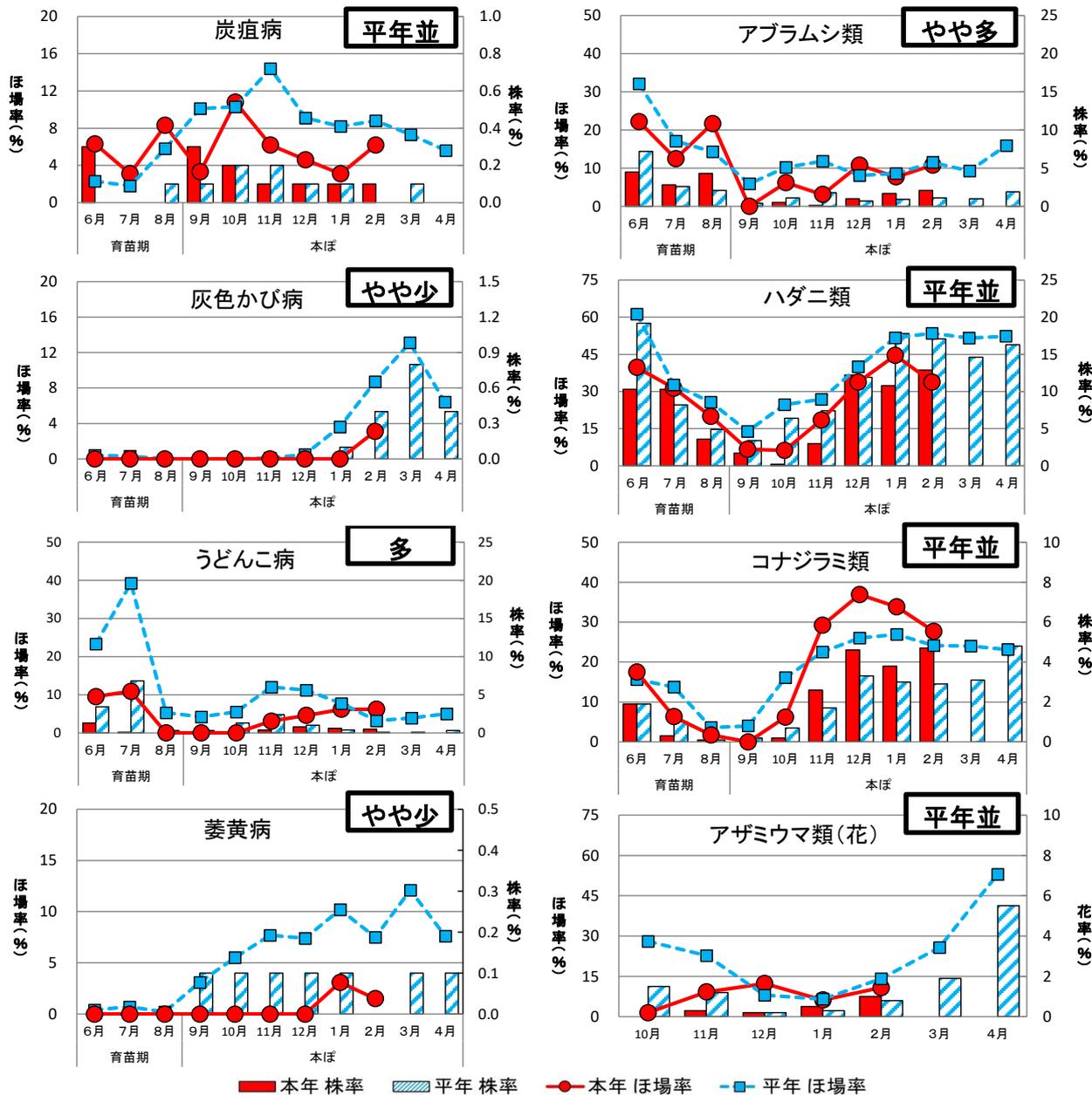


いちご病害虫情報第9号（2月）

令和5（2023）年2月17日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

— 灰色かび病の対策 —

発生が多くなる時期です！まん延防止に努めましょう！

1. 多湿条件において発生しやすいので、下葉（老化葉等）を除去し株元や果房の風通しをよくする。
2. 曇天時のかん水過多に注意し、保温状況を確認しつつ、換気時間を確保することで、ハウス内の湿度を下げる。
3. 発病した果実や果梗、枯死した部位は伝染源となるので、ほ場を良く観察し、見つけたら速やかに取り除き、施設外で処分する。
4. 発生初期に薬剤防除を行う。

■ 今月のトピックス アザミウマ類

アザミウマ類は様々な作物に寄生する小さな虫で、いちご栽培においても重要な害虫となっています。県内いちご栽培ほ場における主要種はヒラズハナアザミウマ（図1、図3）で、一部ミカンキイロアザミウマ（図2）も見られます。ともに体長は1～2 mmで、両者とも非常に似た外見を持ち、現場での識別は困難です。



図1 ヒラズハナアザミウマ成虫



図2 ミカンキイロアザミウマ成虫



図3 ヒラズハナアザミウマ幼虫

これらのアザミウマ類はいちごの花に寄生し、成虫と幼虫が花床を中心に食害します。本虫が寄生した花をルーペでよく観察する、または白い紙等の上で花をやさしくはたき落とすと、紡錘状の小さな虫が確認できます（図1～4）。生きている場合、軽く息を吹きかけると動き出します。



図4 寄生花(赤円部がアザミウマ)

アザミウマ類の被害を受けると、果実表面がカスリ状に褐変し、商品価値がなくなります（図6）。

アザミウマ類は3月以降の気温上昇に伴いハウス内外での発生数が増加してきます。ほ場内を定期的に見回り、発生を認めたら防除を行いましょう。



図5 ミカンキイロアザミウマ被害花



図6 被害果実